

朝鮮総督府における「国語」政策の基礎的研究：朝鮮総督府編纂発行教科書とその背景

長澤，雅春
佐賀女子短期大学

<https://doi.org/10.15017/2202939>

出版情報：韓国研究センター年報. 8, pp.64-64, 2008-03-28. Research Center for Korean Studies, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



朝鮮総督府における「国語」政策の基礎的研究

— 朝鮮総督府編纂発行教科書とその背景 —

佐賀女子短期大学 長澤 雅春

上記課題は、かつて日韓併合期の朝鮮において実施された朝鮮総督府による「国語」政策のありようを明らかにするための基礎研究を目的としたものである。

長澤は、仁済大学校（韓国慶尚南道金海市）日語日文学科の在職期間中（1995～1998）、萌芽研究採択期間（2000～2002）、基盤研究採択期間（2004～2007）を通じて、釜山市立市民図書館と韓国国立中央図書館において朝鮮総督府（編纂）発行教科書・教授書の複写を行ってきた。その成果が、大韓帝国学部発行『日語読本』をはじめとする300余冊の教科書及び教授書、編纂趣意書などである。くわえて、少なくない数の朝鮮総督府発行の朝鮮学事例規・朝鮮教育年鑑・朝鮮教育法規・朝鮮教育関係書を複写してきた。（これらは配布資料参照）

これら、収集した『国語読本』『修身書』『国史』『唱歌』教科書、および編纂趣意書を通じて、a)文字表記の変遷、b)内容の物語性と主題、c)執筆(者)の思想背景、d)教授法、e)教授書／編纂趣意書、についての分析を主要な課題としたものである。

ところが、朝鮮総督府が企図する同化のための朝鮮教育の多様性にも考察の目が及んでいくと、朝鮮映画という未知の分野においても朝鮮教育の影響を見ないわけにはいかない。たとえば、朝鮮映画史において最初のドラマとなる『月下の盟誓』（尹白南監督、1923）では、主人公の「英徳」は上京して京城の学校を卒業した「インテリ青年」（安鍾和『韓国映画側面秘史』1966）として設定されるが、卒業して帰省した英徳は「どうしたわけか」自暴自棄となって酒と博打に明け暮れる。京城の学校を出た青年が職にも就かず自暴自棄となるところに、朝鮮人の高等教育への連絡を予定しない第一次朝鮮教育令（1911）の現実があらわれているのではないかと考えられる。それは、『修身書』などでも、文部省版にある挿絵を差し替えて朝鮮の半開さや民度の低さを記述するように、第一次朝鮮教育令下の教育制度のありようは教科書に如実にあらわれているのである。

それが、1919年3・1独立運動騒擾事件以後の文治政治政策によって朝鮮教育令は改訂され、また朝鮮映画製作も朝鮮人自らの手によって表現できるようになった。本課題では、朝鮮総督府教科書の分析を主軸としながらも、当時の周辺文化（モダン）も併せたものにしたいたいと考えている。